



# 平成20年 水害レポート 2008



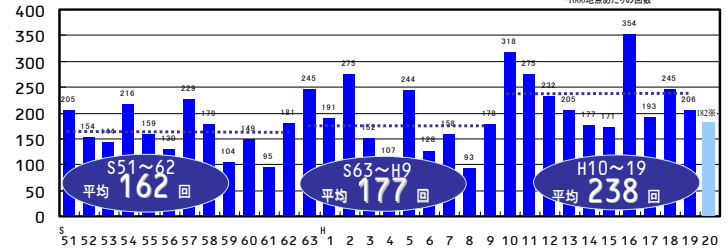
# 平成20年の風水害の特徴

## 近年の降雨の傾向

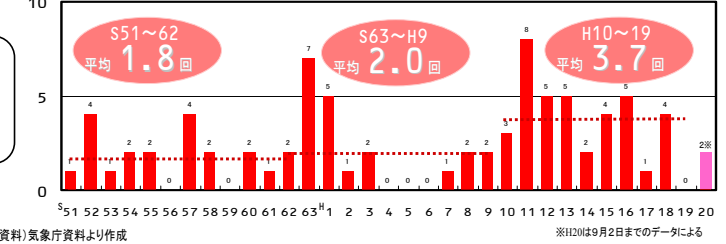
**集中豪雨の発生が増加している**  
 最近10年(H10~19)と約30年前(S51~62)を比較すると  
 時間50mmの豪雨は、**約1.5倍**  
 時間100mmの豪雨は、**約2.1倍**  
 に増加

時間50mm以上の雨は『**非常に激しい雨**』  
 時間80mm以上の雨は『**猛烈な雨**』と表現され、  
 視界が悪く車の運転等に危険を生じる。  
 出典：気象庁HP雨の強さと降り方より

### 1. 1時間降水量 50 mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)

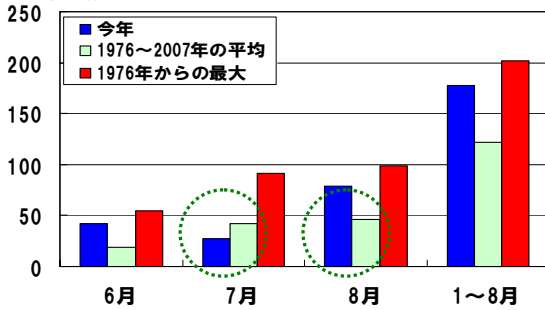


### 2. 1時間降水量 100 mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)



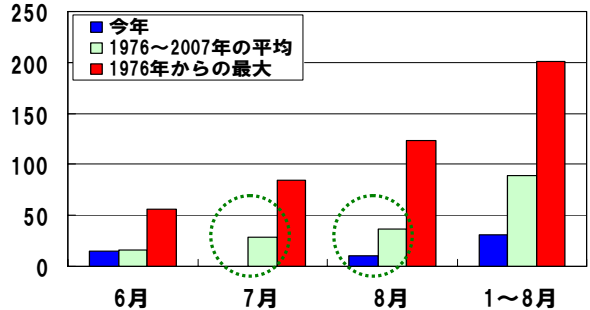
## 平成20年の雨の特徴

### ※気象庁資料より 1時間50ミリ以上の発生回数



「非常に激しい雨」は例年に比べ7月は少なく、8月は多かった

### 日雨量200ミリ以上の発生回数



「大雨」の発生回数は極端に少なかった

「大雨の発生回数」に比べ、短時間強雨の発生回数の多さが目立った。

### ■8年ぶりに台風上陸ゼロ(10月19日時点) 上陸回数(回)

統計開始の1951年から約60年間でみると9月末時点で台風上陸がゼロだった年は4回。  
 2000年以来8年ぶりとなった。  
 (4回のうち1回は10月に上陸あり)

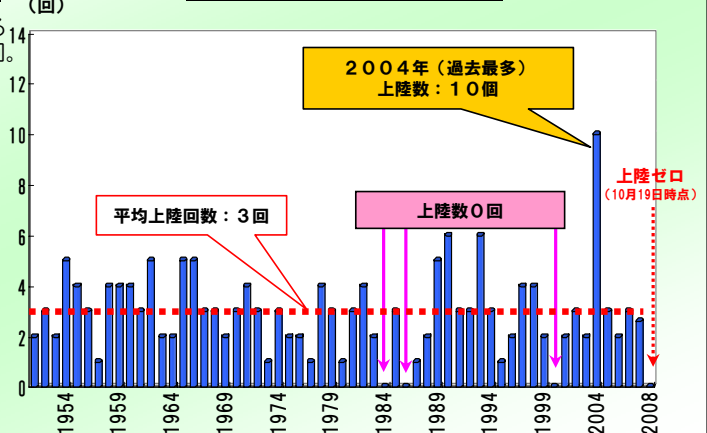
#### ◆年間台風上陸数がゼロの年

年
2000
1986
1984

#### ◆台風上陸数が多い年(上位3年)

年	回数
2004	10
1993	6
1990	6

### 台風上陸回数(※気象庁資料より)





# 1万戸を超える家屋が河川のはん濫等により浸水

## 平成20年の主な風水害による一般被害状況

平成20年10月17日時点

災害要因	人的被害（人）		住家被害（棟）					備考
	死者数	行方不明者数	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	発表日時等
6月19日～28日／梅雨前線 ※ 四国・九州地方	1	0	1	0	7	108	522	6月25日13時00分時点 佐賀県調べ 10月8日時点 熊本県調べ 6月30日17時00分時点 徳島県調べ 6月29日18時48分時点 高知県調べ
7月5日／大気不安定による局地豪雨	0	0	0	0	0	10	106	7月5日16時00分 広島県調べ
7月28日／前線性豪雨	6	0	6	16	61	536	2,464	9月9日18時00分 消防庁調べ
8月26日～31日／平成20年8月末豪雨 <sup>(※1)</sup>	3	0	5	1	18	1,617	8,071	9月10日21時15分 消防庁調べ
9月2日～3日／低気圧に伴う大雨	0	0	0	0	0	25	151	9月10日21時15分 岐阜県調べ
9月17日～／台風13号	0	0	2	0	0	11	146	9月19日16時00分 宮崎県調べ
<b>合計</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>14</b>	<b>17</b>	<b>86</b>	<b>2,307</b>	<b>11,460</b>	

※1 愛知県名古屋市の住家被害（半壊1世帯、一部破損1世帯、床上浸水1,149世帯、床下浸水8,060世帯）は未計上

◇住家被害計（棟）13,884 ◇床上床下計（棟）13,767

関東  
地方

## 8月26日～31日／平成20年8月末豪雨

最大1時間降水量の観測史上第1位を更新する記録的な雨を観測

河川のはん濫などにより  
4,000棟を超える浸水被害が発生



▲女沼川の堤防決壊状況（茨城県古河市）



▲古河市内の浸水状況（茨城県：女沼川のはん濫による）

本州上に停滞していた前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、関東地方の各地で最大1時間降水量の観測史上第1位を更新する猛烈な雨を観測した。

この雨により利根川支川女沼川の堤防決壊をはじめ関東地方の各地で河川が氾濫するなどし、家屋の全壊1棟、一部破損11棟、床上浸水480棟、床下浸水3,862棟の被害となった。

（平成20年9月10日21時15分時点消防庁調べ）

# 北陸地方

## 7月28日／前線性豪雨

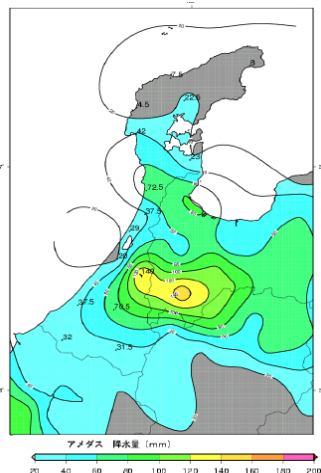
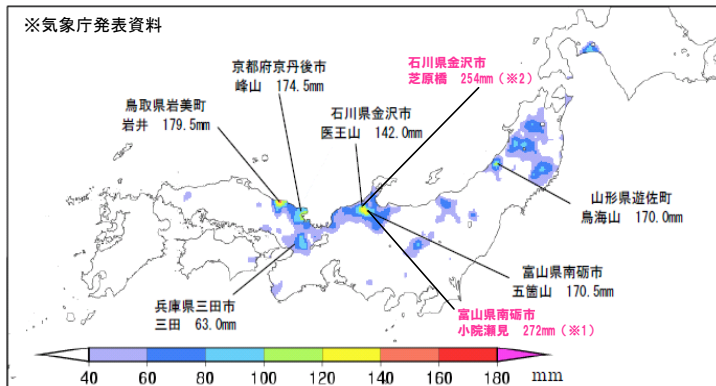
時間雨量100mmを超える猛烈な雨を記録

河川のはん蓋などにより

石川県、富山県を中心に2,000棟を超える浸水被害が発生

### 期間降水分布（7月27日～29日）

※1 国土交通省データ（28日の累計雨量）  
※2 石川県データ（28日の累計雨量）



▲浅野川のはん蓋状況（石川県金沢市）



▲浅野川のはん蓋状況（石川県金沢市）

北陸付近にあった停滞前線が南下し、28日未明から降り始めた雨は、芝原橋観測所（石川県金沢市）で時間雨量114mmを記録するなど、北陸地方で猛烈な雨を記録し、石川県が管理する浅野川がはん蓋するなど金沢市において2,000棟を超える浸水被害が発生した。

この雨により北陸地方では、家屋の全壊6棟、半壊16棟、一部破損54棟、床上浸水513棟、床下浸水1,867棟の被害となった。

（平成20年9月9日18時時点消防庁調べ）



▲金沢市内の浸水状況

# 中部 地方

## 8月26日～31日 / 平成20年8月末豪雨

最大1時間降水量の観測史上第1位を更新する猛烈な雨を観測

愛知県管理の乙川、赤川で堤防が決壊  
河川のはん蓋などにより

愛知県では4,000棟を超える浸水被害が発生

### 愛知県の降雨状況

#### 最大1時間降水量

一宮観測所（一宮市）

120mm（観測史上最大）

参考：観測上2番目の約1.6倍

岡崎観測所（岡崎市）

146.5mm（観測史上最大）

参考：観測史上2番目の約2.7倍

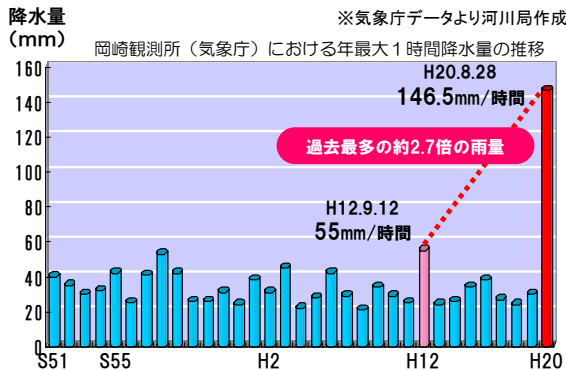
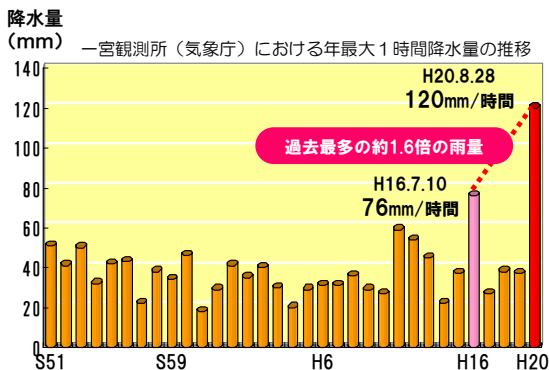
本州上に停滞していた前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、各地で最大1時間降水量の観測史上1位を更新する猛烈な雨となった。

愛知県が管理する乙川や赤川において堤防が決壊するなど各地で河川のはん蓋等による浸水被害が発生した。

この雨により中部地方では、死者3名、家屋の全壊4棟、半壊1棟、一部破損3棟、床上浸水1,142棟、床下浸水3,326棟の被害となった。（※）

（平成20年9月10日21時15分時点消防庁調べ）

※一般被害には名古屋市の住家被害（半壊1世帯、一部破損1世帯、床上1,149世帯、床下8,060世帯）を含まない



▲赤川の堤防決壊状況（愛知県幸田町）



りゅうせんじ みかわ  
▲ 竜泉寺川「三河橋」の落橋（愛知県岡崎市）



▲ 幸田町内の浸水状況



▲ 岡崎市内の浸水被害



▲ 同左



▲ 豊橋市内の浸水状況（愛知県：柳生川のはん濫による）



# 中部 地方

## 9月2日～3日 / 低気圧に伴う大雨



▲大垣市内の浸水状況（岐阜県：<sup>どろ</sup>泥川のはん濫による）

### 24時間雨量600mmを超える雨を観測 岐阜県では河川のはん濫などにより浸水被害が発生

日本海と四国沖にある低気圧の影響で暖かく湿った空気が東海地方に流れ込み岐阜県・三重県を中心に各地で1時間雨量100mm、24時間雨量600mmを超える雨を観測した。

この雨により岐阜県が管理する泥川がはん濫するなど、床上浸水25棟、床下浸水151棟の被害となった。  
（平成20年9月4日16時時点岐阜県調べ）



▲<sup>いび</sup>揖斐川の出水状況（岐阜県<sup>ようろう</sup>養老町上空）

平常時



出水時



▲<sup>くいせ</sup>杭瀬川の出水状況（岐阜県大垣市）

平常時



出水時



▲同左



# 近畿地方

## 7月28日／前線性豪雨

時間雨量100mmを超える猛烈な雨を記録

京都府では河川のはん濫などにより

500棟を超える浸水被害が発生

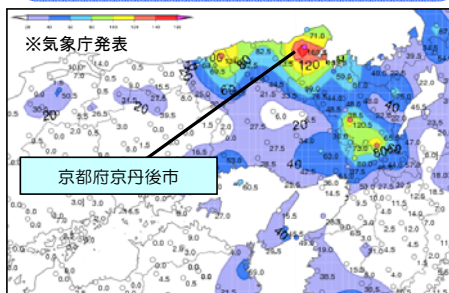


▲福田川の出水状況（京都府京丹後市）



▲京丹後市内の浸水状況（京都府：福田川のはん濫による）

### 期間降水分布（7月28日～29日）



日本海にある前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり近畿地方の北部、中部を中心に雷を伴い1時間に100mmを超える猛烈な雨となった。

この雨により京都府が管理する福田川等がはん濫し、京丹後市において400棟を超える浸水被害が発生したほか、近畿地方では、死者6名、床上浸水22棟、床下浸水564棟の被害となった。

（平成20年9月9日18時時点消防庁調べ）

# 中国地方

## 7月5日／局地的な強雨

時間雨量50mmを超える非常に激しい雨を記録

広島県で河川のはん濫などにより

100棟を超える浸水被害が発生



▲手城川のはん濫状況（広島県福山市）

▲福山市内の浸水状況（広島県：手城川のはん濫による）

5日未明から朝方にかけて、南から暖かく湿った空気が中国地方に流れ込み大気の状態が非常に不安定となり、活発な積乱雲が次々と発生した。広島県福山市を中心に1時間雨量50mmを超える非常に激しい雨を記録し、広島県が管理する手城川が氾濫するなどして床上浸水10棟、床下浸水106棟の被害となった。

（平成20年7月5日16時時点広島県調べ）

# 四国 地方

## 6月29日／梅雨前線

総雨量300mmを超える雨を観測  
徳島県、高知県では河川のはん濫などにより浸水被害が発生



▲安芸市内の浸水状況（高知県：江の川のはん濫による）



▲阿南市内の浸水状況（徳島県：福井川のはん濫による）



▲江の川のはん濫状況（高知県安芸市）

梅雨前線が活発化しながら四国付近を通過。徳島県、高知県を中心に強い雨雲が次々と発生し、1時間雨量50mm、総雨量300mmを超える強い雨となり、河川が氾濫するなどして各地で浸水被害発生した。

この雨により徳島・高知両県で家屋の全壊1棟、一部損壊2棟、床上浸水59棟、床下浸水132棟の被害となった。

（平成20年6月30日17時00分時点徳島県調べ）

（平成20年6月29日18時48分時点高知県調べ）

# 九州 地方

## 6月17～19日／台風13号

総雨量400mmを超える雨を観測  
宮崎県では河川のはん濫などにより浸水被害が発生

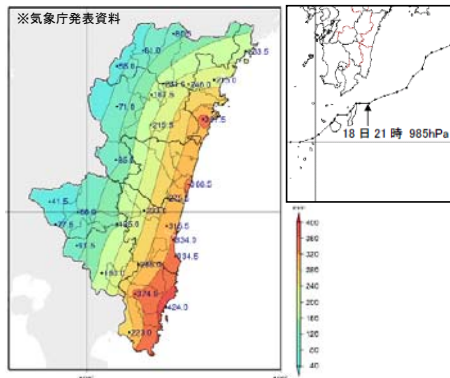


▲加江田川の出水状況（宮崎県宮崎市）



▲串間市内の浸水状況（宮崎県：市木川のはん濫による）

### 期間降水分布及び台風経路図 （9月17日9時～19日9時）

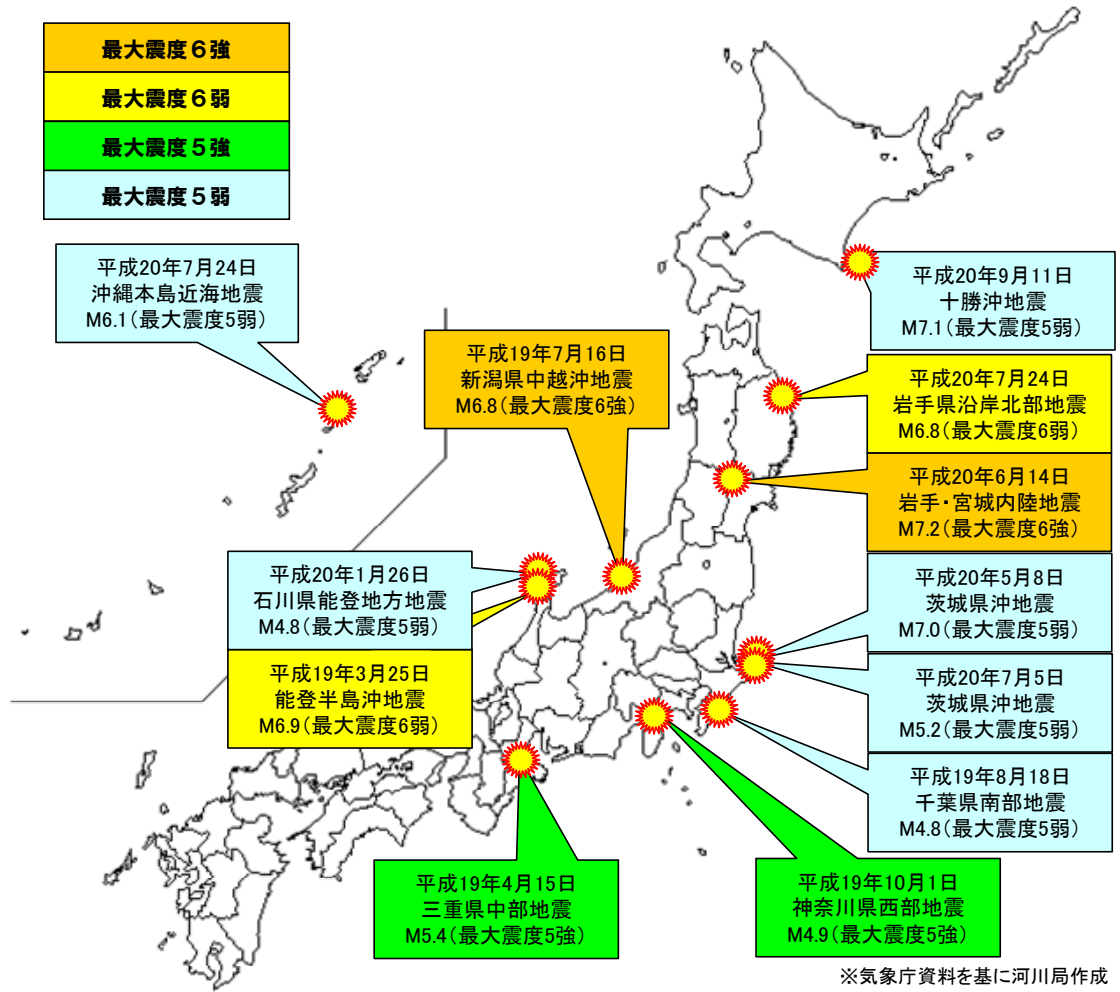


宮崎県では台風13号の接近に伴い、台風をとりまく非常に発達した雨雲の影響で1時間雨量50mm、総雨量400mmを超える非常に激しい雨となり、河川のはん濫などにより各地で浸水被害が発生した。

この雨で、宮崎県において家屋の全壊2棟、床上浸水11棟、床下浸水146棟の被害となった。

（平成20年9月19日16時時点宮崎県調べ）

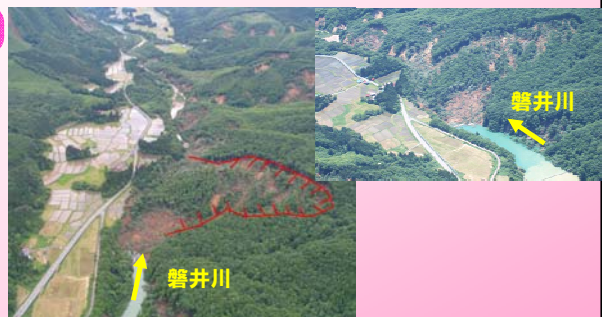
# 最大震度5弱以上の地震発生状況（平成19年～20年10月19日）



## 平成20年岩手・宮城内陸地震の被害状況



▲荒砥沢ダム貯水池周辺の地滑り（宮城県栗原市）



▲磐井川における河道閉塞（岩手県一関市市野々原地区）



▲国道342号祭時大橋の落橋（岩手県一関市）

# 局地的集中豪雨による中小河川の水害や水難事故に対する 国土交通省の取り組み

地球温暖化に伴う局地的集中豪雨による被害の軽減に向けた検討について

(趣旨)

地球温暖化によるものと懸念される局地的な集中豪雨による被害が全国各地で発生している。この7月28日には、金沢市の浅野川において大規模な水害が発生するとともに、神戸市の都賀川において突然の出水による水難事故が発生した。今後、地球温暖化の進行に伴う気候変化の激化により、このような中小河川における洪水被害や水難事故の拡大が懸念されている。

中小河川は、流域が小さく、降った雨が素早く流出してくる特性を持つ。近年では、市街地における透水性の低下や森林の荒廃による保水力の低下などによって、流出の速度は早まる傾向にある。また、河川環境に対する国民のニーズに応え、特に都市部では、親水性の河川空間の創出を進めてきており、多くの利用がなされている。こうした中で、流出の早い局地的な集中豪雨の増加に対して適切な河川管理を行い、洪水被害の軽減、水難事故の回避を図る必要がある。

ところが、局地的に強い降雨による洪水を予測することは難しく、大きな流域の河川のように降雨や水位を感知してからの対応では間に合わないことも多い。また、現状では河川内の利用者には、突発的な洪水の情報を伝えることが難しい。このため、短時間の降雨予測や洪水予測の精度の向上、降雨や水位の観測体制の強化、降雨や洪水の情報伝達の迅速化、情報周知の徹底など局地的な集中豪雨に対する対応を強化する必要がある。

このような状況を踏まえ、国が管理しているような大きな流域の河川とは異なる特性を持つ中小河川において、水害や水難事故に対し「犠牲者ゼロ」を確実なものとするため必要な河川管理のあり方について、既設の「気候変動に適應した治水対策検討小委員会」において検討することとした。

なお、具体的な検討にあっては、中小河川の管理のあり方と都市河川の水難事故の二つの課題について、「気候変動に適應した治水対策検討小委員会」において審議を行うこととするが、審議の円滑化を図るため、河川局内にそれぞれ専門家や自治体の関係者を構成メンバーとするワーキンググループを設置し、年内を目途に取りまとめを行う。

(検討体制)

